ふるさとの風

平成18年（2006年）　野間清治顕彰会だより　7号

◇ 発行編集/野間清治顕彰会 〒376－0022 群馬県桐生市稲荷町1番地の4　桐生市立図書館内 TEL0277－47－4341

総会風景

平成十八年度総会終わる

野間記念館建設に筋道を

去る五月二十八日野間清治顕彰会総会が桐生市市民文化会館国際会議室にて開催された。総会は和気藹々の中新役員を選出、今年度は、野間記念館建設へ向かってと云う目標の新しい一歩を踏み出す確認の総会でもあった。第二部に移り中国は北京出身の二十四歳の美しい中国琵琶奏者芦萍（ロヘイ）さんの演奏にしばし時のたつのを忘れる。

野間清治の、「雑誌の本領は、雑なるにあり、雑があればこそ秩序も生じ、統一も生じ、変化も生じ光彩も生じる。」を信念とし「面白くて為になる」をモットーとして、大衆文化の向上に貢献した郷土の素晴らしい先輩を再確認すると共に文化的感性の漂う町を目指して、市民の賛意を得ながら活動の歩を進めている。

野間清治の偉業は多くの著述に現わされているが、本市、大川美術館館長もよく口にしているが「野間清治は渋沢榮一を超えても以下ではないと！」野間清治は、社内には剣道場・少年部を設けて、剣道の普及にも努め、文武両道を奨励していた。

桐生からも多くの少年社員を採用し、日常の仕事の中で生きた学問を学ばせ、有為の人間を育てるという独自の社員教育を実践した。

講談社を創業し「世界の雑誌王」とよばれた野間清治は明治十一年十二月十七日、群馬県山田郡新宿村（現在の桐生市新宿）に生まれ、昭和十三年十月十六日、五十九歳にて急逝した。今年度の研修旅行では、東京文京区の護国寺に眠る野間清治の墓地も訪れる予定である。

記念館建設は、野間清治顕彰会活動の柱の一つでもあり目標へ近づく、念願の野間記念館建設準備室を南小学校内三階の一教室に設置することが出来た。近い将来本紙六ページ掲載の野間記念館姉妹館建設の夢が・・・夢出なくなる日が近づいた。

この準備室設置を「野間清治生誕一二〇年・講談社創業一〇〇周年・桐生市制九十周年」このどれかの記念事業として、野間清治記念館建設に筋道に繋げ、市民の大合唱としたい。